

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社おいらーく	代表者	星野 二三江	法人・事業所の特徴	東区を中心に医療・福祉施設・介護事業所を展開する豊生会グループの事業所。住宅型有料老人ホーム CoCo 東雁来式番館に併設されていて、事業所のご利用者様は併設のホームに入居をされている方が主となっている。新興住宅街のなかにあり地域的に若いご家庭と子供が多い。
事業所名	えくぼ東雁来 サテライトえくぼ東雁来	管理者	大場 絢太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1	1	人	人	1	人	2	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価9項目について、改善計画通りに取り組んでいく。	項目によっては、ほとんど取り組んでいないものもあるが、少しでも改善に向けて取り組みのきっかけとなった項目は多い	事業所が取り組んでいることは見て取れるが、細かい内容については書面だけでは判断できない。	取り組みの継続をしながら、不得手な部分についてはアプローチを替えてみることも検討する
B. 事業所のしつらえ・環境	玄関の施錠については防犯や離設のリスクとのバランスをとりながら、可能な限り外からのカギは開いておく。	日中の施錠はおこなっていないが、今の所トラブルはない。認知症の方の離設は何度か起こってしまった。	会社としても離設対応訓練を実施したことがあり、離設が起きてしまったからの対応についても備えをしている。	外部からの入館は基本的に自由だが、感染症への対策として面会簿の記入や注意事項についての掲示を見直していく。
C. 事業所と地域のかかわり	年数回でも事業所主催の地域向け行事等を企画開催してみる。	地域向けの行事開催は出来なかったが、地域の小学校や住民のかたからホームでの催しの提案があり、交流機会は何度かあった。	かかわりを持とうという姿勢はもっている。ホームがどのような場所でどんな事をしているのかが、もっと周知出来たら良い。	これまでの関りを継続できるよう、事業所側からも地域の方とのコンタクトをとっていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事等の際には職員の勤務調整をおこないながら、事業所として積極的に関わっていく。	地域行事や選挙、外出など機会はまだまだ少ないが地域の中へ出向く支援も実施した。	事業所として、地域へも出向いていこうという様子はみてとれている。	地域に出向くことが少なかった機会を、増やしていけるよう取り組んでいく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の方の相談も受けていける事業所となるよう、体制を整えていく。	推進会議にご家族様の参加も少しみられるようになり、事業所の運営状況などを伝える機会が持てている。引き続き取り組んでいく。	町内会の活動等に関わっている訳でもなく、協働できる事も現時点では見出せない。推進会議にて関われる機会は持てているので引き続き情報交換等を行う。	推進会議の行事との連動で、ご家族参加をさらに増やしていけるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	防災備蓄等は一定程度備えているが、災害規模によってはまったく十分でないため、可能な限り揃えておくようにする。	水害や夜間想定訓練も実施してきた。防災用品、備蓄食料等を管理しながら在庫の拡充を図ってきている。	地域の方も参加できる訓練等も企画出来たら良いのではないかと。事業所に足を運ぶきっかけにもなる。	地域の方にも声をかけて、協働での防災訓練を実施する。